

logical Association, ALASRU) も、世界中から、農村社会学者、社会科学者及び他の他の開発諸科学の専門家が参加する所を希望している。

国際農村社会学研究会

II 開拓地

II 開拓地 (金沢大学) は次の要旨があつた。

国際農村社会学研究会 (International Rural Sociology Association, I.R.S.A.) は、世界の第五回世界農村社会学會議 (The Fifth World Congress for Rural Sociology) が、一九八〇年に、メキシコ (Mexico) の墨連城で開催された。昨年山梨で行われた第十六回大会の折に開拓地が、この度、やまと講じて開議の内容が述べられたので、お知らせした。されば、

開拓地は、一九八〇年四月七日から三月三日まで、メキシコのメキシコシティ (Mexico City, Mexico) で開催された。開拓地は、

開拓地の共通課題は、「農業問題」、「生態」及び「發展」 (Agrarian Problems, Peasants, and Development) である。開拓地は、

開拓地は、メキシコ農村社会学研究会 (Latin American Rural Socio-

開拓地の活動類型について、最初の二つのが話題がわざとあつた。

(I) ペーパー・セッション (Paper Sessions)。これは、個人的に提出された論文を、発表し、討論する論文部会だ。

(II) ワーク・ショップ (Work Shops)。これは、共通課題のテーマの個面について、予め依頼した基調報告者に報告してから、それを中心に討論を進めていく研究集会だ。

(III) ラウンド・テーブル (Round Tables)。これは、農村发展に関する実際的な問題を討議する円卓会議だ。

以上ですが、プログラム委員会は、現在、以下のとおり (I) メーティング・セッションと呼ばれる論文の提出を呼びかけています。関心をお持ちの方は、いかの諸領域のうち、一つおこなう開拓地のおも論文を御提出ください。

Area A-Agrarian Problems and Development

B-Political Dimension of Rural Development

C-Technological Change in Rural Development

D-Demographic Aspects of Rural Development

E-Planning and Action in Rural Development Programs

F-Employment and Provision of Services in Rural Areas

G-Environment, Quality of Life and Natural Resources

H-Poverty and Stratification in Rural Areas

I -Family, Women and Rural Youth

J -Institutional Structures and Change

Apdo. 20 671
Mexico 20, D. F.

提出された論文を期して、集団や総合の数を決むべくやがれ。また副次的領域一例えば、rural women in development, the provision of health services, rural-urban migration など一例へは、集合が設けられる可能性もあるま。その他、アロカラム松田が、提出された論文に基づいて、全般にわたって調整を行ふま。会議の公用語は、スペイン語、英語、及びフランス語であるといつなりました。

論文を提出された方々、おのれのなかの幅葉で、おもやか、「一頁のトーベトウク」を作成し、「一九七九年一〇月川口セミナー」にてその宛名のいんぐお送りください。

Jose Pastore

Chairman, Program Committee

The 5th World Congress for Rural Sociology

University of Sao Paulo C.P. 11498, Sao Paulo Brazil

日本、組織の少なむる農業問題を題する農業、工場の現状のあらわす理解へ。

Rodolfo Stavenhagen

Chairman, Local Arrangements Committee

The 5th World Congress for Rural Sociology

El Colegio de Mexico

Camino al Adjusco No. 20

一九七六年にボーランセで開催された第五回世界農村社会学
会議では、日本からの論文の提出・発表は、三名、田嶋（田嶋和雄
一編、畠谷川昭彦、川谷鉄夫、各一編）はじめ過半がせんでした。
印度は、わいわい多くの方々が提出し、発表されるこじを期待します。